

# 入 札 説 明 書

令和5年度知床五湖登録引率者養成研修等業務

[全省庁共通電子調達システム対応]

環 境 省

北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所

## はじめに

本令和5年度知床五湖登録引率者養成研修等業務の入札等については、会計法（昭和22年法律第35号）、予算決算及び会計令（昭和22年勅令第165号）、契約事務取扱規則（昭和37年大蔵省令第52号）、その他の関係法令及び環境省入札心得（別紙）に定めるもののほか、この入札説明書によるものとする。

### 1. 契約担当官等

分任支出負担行為担当官

北海道地方環境事務所

釧路自然環境事務所長 川越 久史

### 2. 競争入札に付する事項

(1) 件名 令和5年度知床五湖登録引率者養成研修等業務

(2) 特質等 別添2の仕様書による

(3) 納入期限等 令和6年3月20日

(4) 納入場所 北海道斜里郡斜里町ウトロ西186-10  
ウトロ自然保護官事務所

#### (5) 入札方法

落札者の決定は、最低価格落札方式をもって行うので、

ア. 入札者は、業務に係る経費のほか、納入に要する一切の諸経費を含め契約金額を見積もるものとする。

イ. 落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の10%に相当する額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数がある時は、その端数金額を切り捨てた金額とする。）をもって落札価格とするので、入札者は、消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約金額の110分の100に相当する金額を記載した入札書を提出しなければならない。

(6) 入札保証金及び契約保証金 免除

### 3. 競争参加資格

(1) 予算決算及び会計令第70条の規定に該当しない者であること。なお、未成年者、被保佐人又は被補助人であって、契約締結のために必要な同意を得ている者は、同条中、特別の理由がある場合に該当する。

(2) 予算決算及び会計令第71条の規定に該当しない者であること。

(3) 北海道地方環境事務所から指名停止措置が講じられている期間中の者でないこと。

(4) 令和04・05・06年度環境省競争参加資格（全省庁統一資格）「役務の提供等」の「調査・研究」において、開札時まで「C」又は「D」級に格付され、北海道地域の競争参加資格を有するものであること。

(5) 別紙の業務請負条件を満たした者であること。

(6) 環境省入札心得において示す暴力団排除に関する誓約事項に誓約できる者であること。

#### 4. 契約条項を示す場所等

##### (1) 契約条項を示す場所

〒085-8639 北海道釧路市幸町10丁目3番地 釧路地方合同庁舎4階  
北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所 総務課  
電話 0154-32-7500 F A X 0154-32-7575

#### 5. 入札参加表明及び入札に関する質問の受付

(1) 本件入札に参加する意思がある者は、次に従い、別記様式1の入札参加表明書及び環境省競争参加資格（全省庁統一資格）審査結果通知書の写しを提出すること（入札説明会に参加した者については、環境省競争参加資格（全省庁統一資格）審査結果通知書の写しの提出は不要。）。また、この入札説明書、仕様書等に関する質問がある場合も、次に従い書面（様式は任意）により提出すること。

提出期限 令和5年4月11日（火） 17時まで  
（持参の場合は、12時から13時を除く）

提出場所 4. (1) の場所

提出方法 持参、F A X又は電子メール（NCO-KUSHIRO@env. go. jp）によって提出すること。

(2) (1)の質問に対する回答は、令和5年4月12日（水）17時までに入札参加表明者全員にF A X又は電子メールにより行う。

#### 6. 競争執行の日時、場所等

##### (1) 入札・開札の日時及び場所

日時 令和5年4月18日（火）13時30分

場所 釧路地方合同庁舎 第3会議室

北海道釧路市幸町10丁目3番地 釧路地方合同庁舎4階

##### (2) 入札書の提出方法

###### ア. 電子調達システムによる入札の場合

5 (1) の日時までに、環境省入札心得に定める様式2を電子調達システムにより提出した上で、入札書を同システムにより令和5年4月18日（火）13時29分までに提出するものとする。

###### イ. 書面による入札の場合

環境省入札心得に定める様式3による書面を5 (1) の日時までに持参又はF A Xにより提出した上で、環境省入札心得に定める様式1による入札書を(1)の日時及び場所に持参すること。入札書を電話、F A X、郵送等により提出することは認めない。なお、入札書の日付は、入札日を記入すること。

ウ. 入札者は、その提出した入札書の引換え、変更又は取消しをすることができない。

##### (3) 入札の無効

本入札説明書に示した競争参加資格のない者又は入札条件に違反した者の提出した入札書は無効とする。

#### 7. 落札者の決定方法

(1) 有効な入札書を提出した入札者であって、当該入札者の入札価格が予算決算及び会計令第79条の規定に基づいて作成された予定価格の制限の範囲内であり、かつ、最低価格をもって入札を行った者を落札者とする。

#### 8. 暴力団排除に関する誓約

当該業務の入札については、環境省入札心得において示す暴力団排除に関する誓約事項に誓約の上参加すること。なお、書面により入札する場合は、誓約事項に誓約する旨を入札書に明記することとし、電子調達システムにより入札した場合は、誓約事項に誓約したのものとして取り扱うこととする。

#### 9. その他

##### (1) 入札結果の公表

落札者が決定したときは、入札結果は、落札者を含め入札者全員の商号又は名称及び入札価格について、開札場において発表するとともに、北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所において閲覧資料として公表するものとする。

##### (2) 電子調達システムの操作及び障害発生時の問合せ先

政府電子調達システム (GEPS) ホームページアドレス <https://www.geps.go.jp/>  
ヘルプデスク 0570-014-889 (ナビダイヤル) 受付時間 平日 8時30分～18時30分  
なお、障害発生により電子調達システムの操作ができない場合において、入札の締め切り時間が切迫している等、緊急を要する場合には、4. (1) の場所に一報すること。

#### ◎ 添付資料

- ・別紙1 環境省入札心得
- ・別紙2 業務請負条件
- ・別添1 契約書 (案)
- ・別添2 仕様書

令和 年 月 日

入札参加表明書（及び質問書）

分任支出負担行為担当官  
北海道地方環境事務所  
釧路自然環境事務所長 殿

住所  
商号又は名称  
代表者氏名 印

令和 5 年度知床五湖登録引率者養成研修等業務に係る入札への参加を表明します。

- ※ 1. 令和 04・05・06 年度環境省競争参加資格書（全省庁統一資格）の審査結果通知書の写しを添付すること。
- ※ 2. 入札説明書に関する質問がある場合には、質問書（様式は任意）を添付すること。

担当者連絡先

部署名 :  
担当者名 :  
TEL :  
FAX :  
E-mail :

## 環境省入札心得 (物品役務 最低価格落札方式)

### 1. 趣旨

環境省の所掌する契約（工事に係るものを除く。）に係る一般競争又は指名競争（以下「競争」という。）を行う場合において、入札者が知り、かつ遵守しなければならない事項は、法令に定めるものの他、この心得に定めるものとする。

### 2. 入札説明書等

- (1) 入札者は、入札説明書及びこれに添付される仕様書、契約書案、その他の関係資料を熟読のうえ入札しなければならない。
- (2) 入札者は、前項の書類について疑義があるときは、関係職員に説明を求めることができる。
- (3) 入札者は、入札後、(1)の書類についての不明を理由として異議を申し立てることができない。

### 3. 入札保証金及び契約保証金

環境省競争参加資格（全省庁統一資格）を保有する者の入札保証金及び契約保証金は、全額免除する。

### 4. 入札書の書式等

入札者は、様式1による入札書を提出しなければならない。ただし、電子調達システムにより入札書を提出する場合は、同システムに定めるところによるものとする。

なお、入札説明書において「電子調達システムにより入札書を提出すること」と指定されている入札において、様式1による入札書の提出を希望する場合は、様式3による書面を作成し、入札説明書で指定された日時までに提出しなければならない。

### 5. 入札金額の記載

落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の10パーセントに相当する額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てた金額とする。）をもって落札価格とするので、入札者は消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約金額の110分の100に相当する金額を入札書に記載すること。

### 6. 入札書の提出

- (1) 入札書を提出する場合は、入札説明書において示す暴力団排除に関する誓約事項に誓約の上提出すること。なお、書面により入札する場合は、誓約事項に誓約する旨を入札書に明記することとし、電子調達システムにより入札した場合は、当面の間、誓約事項に誓約したものとして取り扱うこととする。
- (2) 書面による入札書は、封筒に入れ封印し、かつその封皮に氏名（法人の場合はその

名称又は商号)、宛名(分任支出負担行為担当官 北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所長殿と記載)及び「令和5年4月18日開札[令和5年度知床五湖登録引率者養成研修等業務]の入札書在中」と朱書きして、入札日時までに提出すること。また、競争参加資格を証明する書類を開札日時までに提出すること。

- (3) 電子調達システムにより入札する場合は、同システムに定める手続に従い、入札説明書で指定された日時までに入札書を提出すること。通信状況により提出期限内に電子調達システムに入札書が到着しない場合があるので、時間的余裕を持って行うこと。

## 7. 代理人等(代理人又は復代理人)による入札及び開札の立会い

代理人等により入札を行い又は開札に立ち会う場合は、代理人等は、様式4による委任状を持参しなければならない。また、代理人等が電子調達システムにより入札する場合には、同システムに定める委任の手続きを終了しておかなければならない。

## 8. 代理人等の制限

入札者又はその代理人等は、当該入札に係る他の入札者の代理人等を兼ねることができない。

## 9. 入札の無効

次の各項目の一に該当する入札は、無効とする。

- ① 競争に参加する資格を有しない者による入札
- ② 指名競争入札において、指名通知を受けていない者による入札
- ③ 委任状を持参しない又は電子調達システムに定める委任の手続きを終了していない代理人等による入札
- ④ 書面による入札において記名押印(外国人又は外国法人にあっては、本人又は代表者の署名をもって代えることができる。)を欠く入札
- ⑤ 金額を訂正した入札
- ⑥ 誤字、脱字等により意思表示が不明瞭である入札
- ⑦ 明らかに連合によると認められる入札
- ⑧ 同一事項の入札について他人の代理人を兼ね又は2者以上の代理をした者の入札
- ⑨ 入札者に求められる義務を満たすことを証明する必要がある入札にあっては、説明書が契約担当官等の審査の結果採用されなかった入札
- ⑩ 入札書の提出期限までに到着しない入札
- ⑪ 別紙において示す暴力団排除に関する誓約事項に誓約しない者による入札
- ⑫ その他入札に関する条件に違反した入札

## 10. 入札の延期等

入札参加者が相連合し又は不穩の行動をする等の場合であって、入札を公正に執行することができない状態にあると認められるときは、当該入札参加者を入札に参加させず、又は入札の執行を延期し若しくはとりやめることがある。

## 11. 開札の方法

- (1) 開札は、入札者又は代理人等を立ち合わせて行うものとする。ただし、入札者又は

代理人の立会いがない場合は、入札執行事務に関係のない職員を立ち合わせて行うことができる。

- (2) 電子調達システムにより入札書を提出した場合には、入札者又は代理人等は、開札時刻に端末の前で待機しなければならない。
- (3) 入札者又は代理人等は、開札場に入場しようとするときは、入札関係職員の求めに応じ競争参加資格を証明する書類、身分証明書又は委任状を提示しなければならない。
- (4) 入札者又は代理人等は、開札時刻後においては開札場に入場することはできない。
- (5) 入札者又は代理人等は、契約担当官等が特にやむを得ない事情があると認めた場合のほか、開札場を退場することができない。
- (6) 開札をした場合において、予定価格の制限内の価格の入札がないときは、直ちに再度の入札を行うものとする。電子調達システムにおいては、再入札を行う時刻までに再度の入札を行うものとする。なお、開札の際に、入札者又は代理人等が立ち会わず又は電子調達システムの端末の前で待機しなかった場合は、再度入札を辞退したものとみなす。

## 12. 落札者となるべき者が2者以上ある場合の落札者の決定方法

当該入札の落札者の決定方法によって落札者となるべき者が2者以上あるときは、直ちに当該者にくじを引かせ、落札者を決定するものとする。なお、入札者又は代理人等が直接くじを引くことができないときは、入札執行事務に関係のない職員がこれに代わってくじを引き、落札者を決定するものとする。

## 13. 落札決定の取消し

落札決定後であっても、入札に関して連合その他の事由により正当な入札でないことが判明したときは、落札決定を取消することができる。

## 14. 契約書の提出等

- (1) 落札者は、契約担当官等から交付された契約書に記名押印（外国人又は外国法人が落札者である場合には、本人又は代表者が署名することをもって代えることができる。）し、落札決定の日から10日以内（期終了の日が行政機関の休日に関する法律（昭和63年法律第91号）第1条に規定する日に当たるときはこれを算入しない。）に契約担当官等に提出しなければならない。ただし、契約担当官等が必要と認めた場合は、この期間を延長することができる。
- (2) 落札者が前項に規定する期間内に契約書を提出しないときは、落札は、その効力を失う。

## 15. 契約手続において使用する言語及び通貨

契約手続において使用する言語は日本語とし、通貨は日本国通貨に限る。



## 別紙

### 暴力団排除に関する誓約事項

当社（個人である場合は私、団体である場合は当団体）は、下記事項について、入札書（見積書）の提出をもって誓約いたします。

この誓約が虚偽であり、又はこの誓約に反したことにより、当方が不利益を被ることとなっても、異議は一切申し立てません。

また、官側の求めに応じ、当方の役員名簿（有価証券報告書に記載のもの（生年月日を含む。）。ただし、有価証券報告書を作成していない場合は、役職名、氏名及び生年月日の一覧表）及び登記簿謄本の写しを提出すること並びにこれらの提出書類から確認できる範囲での個人情報警察に提供することについて同意します。

### 記

1. 次のいずれにも該当しません。また、将来においても該当することはありません。

(1) 契約の相手方として不適当な者

ア 法人等（個人、法人又は団体をいう。）の役員等（個人である場合はその者、法人である場合は役員又は支店若しくは営業所（常時契約を締結する事務所をいう。）の代表者、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。）が、暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ）又は暴力団員（同法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）であるとき

イ 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしているとき

ウ 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき

エ 役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有しているとき

(2) 契約の相手方として不適当な行為をする者

ア 暴力的な要求行為を行う者

イ 法的な責任を超えた不当な要求行為を行う者

ウ 取引に関して脅迫的な言動をし、又は暴力を用いる行為を行う者

エ 偽計又は威力を用いて会計課長等の業務を妨害する行為を行う者

オ その他前各号に準ずる行為を行う者

2. 暴力団関係業者を再委託又は当該業務に関して締結する全ての契約の相手方としません。

3. 再受任者等（再受任者、共同事業実施協力者及び自己、再受任者又は共同事業実施協力者が当該契約に関して締結する全ての契約の相手方をいう。）が暴力団関係業者であることが判明したときは、当該契約を解除するため必要な措置を講じます。

4. 暴力団員等による不当介入を受けた場合、又は再受任者等が暴力団員等による不当介入を受けたことを知った場合は、警察への通報及び捜査上必要な協力を行うとともに、発注元の契約担当官等へ報告を行います。

入 札 書

令和 年 月 日

分任支出負担行為担当官  
北海道地方環境事務所  
釧路自然環境事務所長 殿

住 所  
会 社 名  
代表者氏名 印

(復) 代理人 印

注) 代理人又は復代理人が入札書を持参して入札  
する場合に、(復) 代理人の記名押印が必要。  
このとき、代表印は不要(委任状には必要)。

下記のとおり入札します。

記

- 1 入札件名 : 令和5年度知床五湖登録引率者養成研修等業務
- 2 入札金額 : 金 \_\_\_\_\_ 円
- 3 契約条件 : 契約書及び仕様書その他一切貴省の指示のとおりとする。
- 4 誓約事項 : 暴力団排除に関する誓約事項に誓約する。

様式 2

令和 年 月 日

分任支出負担行為担当官  
北海道地方環境事務所  
釧路自然環境事務所長 殿

住 所  
会 社 名  
代表者氏名

印

電子入札案件の電子入札方式での参加について

下記入札案件について、電子調達システムを利用して入札に参加をいたします。

記

入札件名：令和 5 年度知床五湖登録引率者養成研修等業務

令和 年 月 日

分任支出負担行為担当官  
北海道地方環境事務所  
釧路自然環境事務所長 殿

住 所  
会 社 名  
代表者氏名

印

電子入札案件の紙入札方式での参加について

下記入札案件について、電子調達システムを利用して入札に参加できないので、紙入札方式での参加をいたします。

記

- 1 入札件名：令和5年度知床五湖登録引率者養成研修等業務
- 2 電子調達システムでの参加ができない理由  
(記入例) 電子調達システムで参加する手続が完了していないため

委 任 状

令和 年 月 日

分任支出負担行為担当官  
北海道地方環境事務所  
釧路自然環境事務所長 殿

住 所  
(委任者) 会 社 名  
代表者氏名

印

代理人住所  
(受任者) 所属(役職名)  
氏 名

印

当社 を代理人と定め下記権限を委任します。

記

(委任事項)

- 1 令和5年度知床五湖登録引率者養成研修等業務の入札に関する一切の件
- 2 1の事項にかかる復代理人を選任すること。

委 任 状

令和 年 月 日

分任支出負担行為担当官  
北海道地方環境事務所  
釧路自然環境事務所長 殿

代理人住所  
(委任者) 所属(役職名)  
氏 名 印

復代理人住所  
(受任者) 所属(役職名)  
氏 名 印

当社 を復代理人と定め下記権限を委任します。

記

(委任事項)

令和5年度知床五湖登録引率者養成研修等業務の入札に関する一切の件

入札辞退届

令和 年 月 日

分任支出負担行為担当官  
北海道地方環境事務所  
釧路自然環境事務所長 殿

住 所  
商号又は名称  
代表者氏名

令和 5 年度知床五湖登録引率者養成研修等業務に係る入札を辞退します。

担当者連絡先

部署名 :  
担当者名 :  
TEL :  
FAX :  
E-mail :

## 令和 5 年度知床五湖登録引率者養成研修等業務請負条件

知床五湖登録引率者養成研修等業務については、知床五湖利用調整地区制度に基づく登録引率者の養成研修等を行うため、ヒグマを取り巻く制度、生態・行動特性、遭遇回避及び遭遇時の危機回避等に関する高い知見が必要である。

以上の観点から、下記に従い業務請負条件に係る確認書類を提出すること。

### 記

#### (1) 提出書類 (別添様式)

- ・自然公園においてヒグマへの対処を含む安全管理研修の実施に係る業務実績が確認できる書類 (契約書の写し等)

#### (2) 提出期限等

##### ① 提出期限

令和 5 年 4 月 13 日 (木) 17 時

##### ② 業務請負条件に係る書類の提出場所及び作成に関する問合せ先 入札説明書 4 (1) に同じ

##### ③ 提出部数

5 部

##### ④ 提出方法

持参又は郵送 (提出期限必着) による。

郵送する場合は、書留郵便等の配達記録が残る方法に限る。

##### ⑤ 提出に当たっての注意事項

ア 持参する場合の受付時間は、平日の 10 時から 17 時まで (12 時～13 時は除く) とする。

イ 郵送する場合は、封書の表に「令和 5 年度知床五湖登録引率者養成研修等業務請負条件資料在中」と明記すること。提出期限までに提出先に現に届かなかった業務請負条件資料は、無効とする。

ウ 提出された業務請負条件に係る書類は、その事由の如何にかかわらず、変更又は取消しを行うことはできない。また、返還も行わない。

エ 虚偽の記載をした業務請負条件に係る資料は、無効とするとともに、提出者に対して指名停止を行うことがある。

オ 業務請負条件に係る書類の作成及び提出に係る費用は、提出者の負担とする。

カ 提出された業務請負条件に係る書類は、環境省において、業務請負条件の審査以外の目的に提出者に無断で使用しない。一般競争の結果、契約相手になった者が提出した業務請負条件に係る資料は、行政機関の保有する情報の公開に関する



法律（平成11年法律第42号）に基づき開示請求があった場合においては、不開示情報（個人情報、法人等の正当な利益を害するおそれがある情報等）を除いて開示される場合がある。

（3）審査結果の回答

令和5年4月14日（金）17時

なお、審査結果通知書の発出にあたっては、原本の郵送に先行して指定された宛先にFAX又は電子メールによる事前送信を行う。

(別添様式)

令和 年 月 日

分任支出負担行為担当官  
北海道地方環境事務所  
釧路自然環境事務所長 殿

所在地  
商号又は名称  
代表者氏名 印

令和5年度知床五湖登録引率者養成研修等業務  
請負条件書類の提出について

標記の件について、次のとおり提出します。  
なお、書類の提出にあたり、暴力団排除に関する誓約事項に誓約します。

自然公園においてヒグマへの対処を含む安全管理研修の実施に係る業務実績が確認できる書類（契約書の写し等）

(担当者)  
所属部署：  
氏名：  
TEL/FAX：  
E-mail：



## 契 約 書 (案)

分任支出負担行為担当官 北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所長 川越 久史  
(以下「甲」という。)は、  
(以下「乙」という。)と  
「令和5年度知床五湖登録引率者養成研修等業務」(以下「業務」という。)について、  
次の条項により契約を締結する。

(契約の内容)

第1条 乙は、別添の仕様書に基づき業務を行うものとする。

(契約金額)

第2条 契約金額は金 円(うち消費税及び地方消費税の額 円)  
とする。

(履行期限及び納入場所)

第3条 履行期限及び納入場所は次のとおりとする。

履行期限 令和6年3月20日  
納入場所 ウトロ自然保護官事務所

(契約保証金)

第4条 甲は、この契約の保証金を免除するものとする。

(再委任等の制限)

第5条 乙は、業務の処理を他人(乙の子会社(会社法(平成17年法律第86号)第2条第3号に規定する子会社をいう。)である場合も含む。)に委託し、又は請け負わせてはならない。但し、書面により甲の承諾を得たときはこの限りではない。

(監督)

第6条 乙は、甲の指示監督により業務を行うものとする。

2 業務の遂行にあたって疑義又は不明の点が生じたときは、甲の指示に従うものとする。

(検査及び引渡し)

第7条 乙は、業務の全部又は一部を完了したときは業務終了報告書を作成し、その旨を書面により甲に通知しなければならない。

2 甲は、前項の通知を受けたときは、その日から10日以内に検査を行い、検査に合格した後、乙が成果物の引渡しを申出たときは、直ちにその引渡しを受けなければならない。

3 乙は、前項の検査に合格しないときは直ちに修補して甲の検査を受けなければならない。この場合においては、前項の期間は甲が乙から修補を終了した旨の通知を受けた日から起算する。

(契約金額の支払い)

第8条 乙は、前条第2項の検査に合格したときは、契約金額（この契約の締結後、契約金額の変更があった場合には、変更後の契約金額。以下同じ。）の支払いを請求するものとする。

2 甲は、前項の規定による請求を受けたときは、その日から起算して30日以内（以下「約定期間」という。）に契約金額を支払わなければならない。

(支払遅延利息)

第9条 甲は、第8条の約定期間内に契約金額を乙に支払わない場合は、約定期間満了の日の翌日から支払いをする日までの日数に応じ、契約金額に対し、政府契約の支払遅延に対する遅延利息の率を定める告示により財務大臣が決定する率を乗じて計算した金額を遅延利息として乙に支払わなければならない。ただし、約定期間内に支払わないことが、天災地変等甲の責に帰すことのできない事由によるときは、当該事由の継続する期間は、遅延利息の算定日数に算入しないものとする。

(仕様書等の変更)

第10条 甲は、必要があると認めるときは、仕様書等の変更内容を乙に通知して、仕様書等を変更することができる。この場合において、甲は、必要があると認められるときは履行期限若しくは契約金額を変更し、又は乙に損害を及ぼしたときは必要な費用を負担しなければならない。

(業務の中止)

第11条 天災地変その他止むを得ない事由により、業務の遂行が困難となったときは、乙は、甲と協議の上契約の解除を行うものとする。

2 前項の規定により契約を解除するときは、第7条から第9条までの規定に準じ精算する。

(契約の解除)

第12条 甲は、次の各号の一に該当するときは、催告することなくこの契約の全部又は一部を解除することができる。

一 乙の責に帰する事由により、乙がこの契約の全部又は一部を履行する見込みがないと認められるとき。

二 乙が第5条、第19条又は第19条の2若しくは第20条の規定に違反したとき。

三 乙又はその使用人が甲の行う監督及び検査に際し不正行為を行い、又は監督官等の職務の執行を妨げたとき。

四 履行期限内に業務終了報告書の提出がなかったとき。

2 甲は、乙が次の各号の一に該当すると認められるときは、催告することなくこの契約を解除することができる。

一 法人等（個人、法人又は団体をいう。）の役員等（個人である場合はその者、法人である場合は役員又は支店若しくは営業所（常時契約を締結する事務所をいう。）の代表者、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者を

いう。)が、暴力団(暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成3年法律第77号)第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ)又は暴力団員(同法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。)であるとき。

- 二 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的、又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしているとき。
  - 三 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき。
  - 四 役員等が、暴力団又は暴力団員であることを知りながらこれを不当に利用するなどしているとき。
  - 五 役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有しているとき。
- 3 甲は、乙が自ら又は第三者を利用して次の各号の一に該当する行為をした場合は、催告することなくこの契約を解除することができる。
- 一 暴力的な要求行為
  - 二 法的な責任を超えた不当な要求行為
  - 三 取引に関して脅迫的な言動をし、又は暴力を用いる行為
  - 四 偽計又は威力を用いて甲等の業務を妨害する行為
  - 五 その他前各号に準ずる行為

(再受任者等に関する契約解除)

第13条 乙は、契約後に再受任者等(再受任者及び共同事業実施協力者並びに乙、共同事業実施協力者又は再受任者が当該契約に関して個別に契約する場合の当該契約の相手方をいう。以下同じ。)が第12条第2項及び第3項の一に該当する者(以下「解除対象者」という。)であることが判明したときは、直ちに当該再受任者等との契約を解除し、又は再受任者等に対し契約を解除させるようにしなければならない。

- 2 甲は、乙が再受任者等が解除対象者であることを知りながら契約し、若しくは再受任者等の契約を承認したとき、又は正当な理由がないのに前項の規定に反して当該再受任者等との契約を解除せず、若しくは再受任者等に対し契約を解除させるための措置を講じないときは、催告することなくこの契約を解除することができる。

(違約金等)

第14条 甲が第12条又は前条第2項の規定により契約の全部又は一部を解除した場合は、乙は契約金額の100分の10に相当する額を違約金として甲の指定する期間内に支払わなければならない。

- 2 次に掲げる者が契約を解除した場合は、乙は契約金額の100分の10に相当する額を違約金として甲の指定する期間内に支払わなければならない。
- 一 乙について破産手続開始の決定があった場合において、破産法(平成16年法律第75号)の規定により選任された破産管財人
  - 二 乙について更生手続開始の決定があった場合において、会社更生法(平成14年法律第154号)の規定により選任された管財人
  - 三 乙について再生手続開始の決定があった場合において、民事再生法(平成11年法律第225号)の規定により選任された再生債務者等
- 3 乙が、次に掲げる場合のいずれかに該当したときは、乙は、甲の請求に基づき、契約金額の100分の10に相当する額を違約金として甲の指定する期間内に支払わなければならない。
- 一 この契約に関し、乙が私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律(昭和22

年法律第54号。以下「独占禁止法」という。)第3条の規定に違反し、又は乙が構成事業者である事業者団体が独占禁止法第8条第1号の規定に違反したことにより、公正取引委員会が乙に対し、独占禁止法第7条の2第1項(独占禁止法第8条の3において準用する場合を含む。)の規定に基づく課徴金の納付命令(以下「納付命令」という。)を行い、当該納付命令が確定したとき(確定した当該納付命令が独占禁止法第63条第2項の規定により取り消された場合を含む。)

二 納付命令又は独占禁止法第7条若しくは第8条の2の規定に基づく排除措置命令(これらの命令が受注者又は受注者が構成事業者である事業者団体(以下「乙等」という。)に対して行われたときは、乙等に対する命令で確定したものをいい、乙等に対して行われていないときは、各名宛人に対する命令全てが確定した場合における当該命令をいう。次号において「納付命令又は排除措置命令」という。)において、この契約に関し、独占禁止法第3条又は第8条第1号の規定に違反する行為の実行としての事業活動があったとされたとき。

三 納付命令又は排除措置命令により、乙等に独占禁止法第3条又は第8条第1号の規定に違反する行為があったとされた期間及び当該違反する行為の対象となった取引分野が示された場合において、この契約が、当該期間(これらの命令に係る事件について、公正取引委員会が乙に対し納付命令を行い、これが確定したときは、当該納付命令における課徴金の計算の基礎である当該違反する行為の実行期間を除く。)に入札(見積書の提出を含む。)が行われたものであり、かつ、当該取引分野に該当するものであるとき。

四 この契約に関し、乙(法人にあっては、その役員又は使用人を含む。)の刑法(明治40年法律第45号)第96条の6又は独占禁止法第89条第1項若しくは第95条第1項第1号に規定する刑が確定したとき。

4 乙が前二項の違約金を甲の指定する期間内に支払わないときは、乙は、当該期間を経過した日から支払いをする日までの日数に応じ、年3パーセントの割合で計算した額の遅延利息を甲に支払わなければならない。

5 第1項、第2項及び第3項の規定は、甲に生じた実際の損害の額が違約金の額を超える場合において、甲がその超える分の損害を損害金として請求することを妨げない。

#### (損害賠償)

第15条 甲は、第12条又は第13条第2項の規定によりこの契約を解除した場合は、これにより乙に生じた損害について、何ら賠償ないし補償することは要しない。

#### (表明確約)

第16条 乙は、第12条第2項及び第3項のいずれにも該当しないことを表明し、かつ、将来にわたっても該当しないことを確約する。

2 乙は、解除対象者を再受任者等としないことを確約する。

#### (不当介入に関する通報・報告)

第17条 乙は、自ら又は再受任者等が、暴力団、暴力団員、社会運動・政治運動標ぼうゴロ等の反社会的勢力から不当要求又は業務妨害等の不当介入(以下「不当介入」という。)を受けた場合は、これを拒否し、又は再受任者等をして、これを拒否させるとともに、速やかに不当介入の事実を甲に報告するとともに、警察への通報及び捜査上必要な協力を行うものとする。

(担保責任)

第18条 甲は、第7条の規定により引渡しを受けた後1年以内に契約の内容に適合しないものであることを発見したときは、契約不適合である旨を乙に通知し、修補又は既に支払った契約金額の一部を返還させることができるものとする。

(秘密の保全)

第19条 乙は、この契約の履行に際し知得した相手方の秘密を第三者に洩らし又は他の目的に利用してはならない。

(個人情報の取扱い)

第19条の2 乙は、甲から預託された個人情報（生存する個人に関する情報であつて、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述又は個人別に付された番号、記号その他の符号により当該個人を識別できるもの（当該情報のみでは識別できないが、他の情報と照合することができ、それにより当該個人を識別できるものを含む。）をいう。）及び特定個人情報（マイナンバー（個人番号）をその内容に含む個人情報をいう。）（以下、「個人情報」という。）については、善良なる管理者の注意をもって取り扱わなければならない。

2 乙は、甲から預託された個人情報を取り扱わせる業務を再委任等する場合は、事前に甲の承認を得るとともに、本条に定める、甲が乙に求めた個人情報の適切な管理のために必要な措置と同様の措置を当該再受任者等も講ずるように求め、かつ当該再受任者等が約定を遵守するよう書面で義務づけなければならない、承認を得た再受任者等の変更及び再受任者等が再々委任等を行う場合についても同様とする（以下、承認を得た再受任者等を単に「再受任者等」という。）。

3 乙は、前項の承認を受けようとする場合は、あらかじめ書面により甲の承諾を得なければならない。

4 乙は個人情報の取扱いに係る業務を派遣労働者によって行わせる場合には、労働者派遣契約書に秘密保持義務等個人情報の取扱いに関する事項を明記しなければならない。

5 乙は、個人情報を取り扱う従事者の明確化、従事者に対する監督・教育を行うものとする。

6 乙は、次の各号に掲げる行為をしてはならない。ただし、事前に甲の承認を得た場合はこの限りでない。

一 甲から預託された個人情報を第三者（前項記載の書面の合意をした再受任者等を除く。）に提供し、又はその内容を知らせること。

二 甲から預託された個人情報について、甲が示した利用目的（特に明示がない場合は本契約の目的）の範囲を超えて使用し、複製し、又は改変すること。

三 特定個人情報を取り扱う業務において、乙（再受任者等があるときは再受任者等を含む。）の事務所、事業場等から外部に特定個人情報を持ち出すこと。

7 乙は、甲から預託された個人情報を取り扱う場合には、責任者及び取扱者の管理及び実施体制、個人情報の管理の状況についての検査に関する事項等の必要な事項について定めた書面を甲に提出するとともに、個人情報の漏えい、滅失、毀損の防止その他の個人情報の適切な管理（再受任者等による管理を含む。）のために必要な措置を講じなければならない。

8 甲は、個人情報の秘匿性等その内容やその量等に応じて必要があると認めるときは、所属の職員に、乙（再受任者等があるときは再受任者等を含む。）の事務所、事業場等において、甲が預託した個人情報の管理が適切に行われているか等について実地検査等

の調査をさせ、乙に対し必要な指示をさせることができる。

- 9 乙は、業務の完了又は契約解除等により、甲が預託した個人情報が含まれる紙媒体及び電子媒体（これらの複製を含む。）が不要になった場合には、速やかに甲に返却又は破砕、溶解及び焼却等の方法により個人情報を復元困難及び判読不可能な方法により廃棄若しくは消去し、その旨を書面により甲に報告しなければならない。ただし、甲が別段の指示をしたときは、乙はその指示に従うものとする。
- 10 乙は、甲から預託された個人情報の漏えい、滅失、毀損、不正使用、その他本条に違反する事実を認識した場合には、直ちに自己の費用及び責任において被害の拡大防止等のため必要な措置を講ずるとともに、甲に当該事実が発生した旨、並びに被害状況、復旧等の措置及び本人（個人情報により識別されることとなる特定の個人）への対応等について直ちに報告しなければならない。また、甲から更なる報告又は何らかの措置・対応の指示を受けた場合には、乙は当該指示に従うものとする。
- 11 乙は、甲から預託された個人情報以外に、業務に関して自ら収集又は作成した個人情報については、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）及び行政手続法における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成25年法律第27号）に基づいて取り扱うこととし、甲が別段の指示をしたときは当該指示に従うものとする。
- 12 乙は、乙又は再受任者等の責めに帰すべき事由により、業務に関連する個人情報（甲から預託された個人情報を含む。）の漏えい、滅失、毀損、不正使用、その他本条に係る違反等があった場合は、これにより甲又は第三者に生じた一切の損害について、賠償の責めを負う。
- 13 本条の規定は、本契約又は業務に関連して乙又は再受任者等が甲から預託され、又は自ら取得した個人情報について、業務を完了し、又は解除その他の理由により本契約が終了した後であっても、なおその効力を有する。

#### （債権譲渡の禁止）

第20条 乙は、この契約によって生じる権利又は義務の全部若しくは一部を甲の承諾を得た場合を除き第三者に譲渡し、又は承継させてはならない。ただし、信用保証協会及び中小企業信用保険法施行令（昭和25年政令第350号）第1条の3に規定する金融機関に対して売掛債権を譲渡する場合にあっては、この限りではない。

#### （紛争又は疑義の解決方法）


第21条 この契約について、甲乙間に紛争又は疑義を生じた場合には、必要に応じて甲乙協議して解決するものとする。



本契約の証として本書2通を作成し、当事者記名押印のうえ、各自1通を保有する。

令和5年 月 日

甲 住 所 北海道釧路市幸町10丁目3番地 釧路地方合同庁舎4階

氏 名 分任支出負担行為担当官  
北海道地方環境事務所  
釧路自然環境事務所長 川越 久史 

乙 住 所

氏 名 

## 令和 5 年度知床五湖登録引率者養成研修等業務 仕様書

## 1. 業務の目的

知床国立公園知床五湖では、ヒグマの活動が活発になる時期、知床五湖の利用のあり方協議会登録引率者審査部会（以下「審査部会」という。）が養成・登録した登録引率者の同行を義務付けることにより、ヒグマとの軋轢を予防し、より安全な利用環境の確保を図っている。

本業務は、審査部会と調整しながら、新規に登録引率者になろうとする者の養成研修及び登録引率者試験の運営を実施し、知床五湖の適正な利用環境を整えるものである。

## 2. 業務の内容

審査部会と調整しながら、知床五湖登録引率者新規養成カリキュラム（別紙 1）に則り、各研修（A～G）の運営を行う。また、登録引率者試験の運営（試験説明会の開催・筆記試験及び実地試験の実施）も行う。なお、研修対象者は 2 名程度を想定している。

## 3. 業務の実施方法

## (1) 知床五湖登録引率者新規養成

知床五湖登録引率者新規養成カリキュラムに則り、以下により各研修（A～G）の運営を行う。研修 D・F・G の運営においては実施要綱（別紙 2～4）も参照すること。運営にあたっては、業務の詳細を審査部会事務局へ確認・調整・報告を密に行い、知床五湖登録引率者新規養成者（以下「新規養成者」という。）等との連絡調整も適宜行うこと。また、研修（A、B、C）には審査部会事務局員の立ち会いを設定すること。また、さらに次年度募集が決定した際には、募集パンフレットの作成を行うこと（過去データの微修正を想定。）。

## ① 研修 A（制度概要・危機管理研修）

「知床五湖ヒグマ活動期運用ハンドブック」を用いて、利用調整地区制度概要及び引率時の危機管理について新規養成者に説明を行う。なお、「知床五湖ヒグマ活動期運用ハンドブック」（126 ページ）については、環境省担当官が提供する pdf データの印刷を行い、新規養成者に対し各 1 部配布すること。

なお、「知床五湖ヒグマ活動期運用ハンドブック」については、「令和 2 年度（2020 年度）知床五湖登録引率者養成研修等業務」において改定すべき点について検討を行っているが、この改良すべき事項について、実施可能なものから順に、各研修での試行的な実施を進めていくこととしているので、この点に留意して研修を進めること。

また、知床五湖利用調整地区利用適正化計画については、令和 2 年 2 月に第 3 期計画へ変更となっていることに留意すること。

制度概要では、利用調整地区制度の目的（自然環境への負荷軽減、安全管理）・知床五湖運用方針の解説・知床五湖登録引率者の役割に関して説明を行う。

危機管理では、知床五湖における引率のリスク・リスク回避のための備えについて説明を行う。

② 研修 B (知床五湖におけるヒグマ対処法の研修)

新規養成者と研修担当者(公益財団法人知床財団)との連絡調整を行い、研修を実施する。

③ 研修 C (知床五湖の利用のコントロール運用に関する研修)

新規養成者と研修担当者(知床ガイド協議会)との連絡調整を行い、研修を実施する。

④ 研修 D (インターン研修 1 - ヒグマ活動期の知床五湖地上遊歩道ツアー同行)

新規養成者から提出される研修レポートを受領し、研修の実施状況を把握すること。研修レポートは審査部会事務局へ送付すること。また、研修の実施状況に応じて新規養成者との連絡調整を行い、適切に研修が実施されるよう補助すること。

⑤ 研修 E (シーズン中・後研修への参加)

新規養成者と連絡調整を行い、研修参加日を取りまとめる。

なお、本研修では過年度のヒグマ遭遇事例を元にケーススタディミーティングを行うことを想定しているが、知床五湖におけるヒグマ対応・運用ルールの変遷について、簡単にまとめた資料を用意すること。

⑥ 研修 F (インターン研修 2 - 知床五湖フィールドハウス受付業務補助)

知床五湖フィールドハウスから提出される研修レポートを受領し、研修の実施状況を把握すること。また、必要に応じて研修実施における新規養成者と研修担当者(知床五湖フィールドハウス)との連絡調整を行うこと。

⑦ 研修 G (自主引率の実施)

新規養成者から提出される研修レポートを受領し、研修の実施状況を把握すること。研修レポートは審査部会事務局へ送付すること。また、研修の実施状況に応じて新規養成者との連絡調整を行い、適切に研修が実施されるよう補助すること。

(2) 登録引率者試験

1) 研修 E (10 月、2 日間) と同時に開催される登録引率者試験説明会の準備、運営を行う。

2) 筆記試験の準備、運営を行う。具体的には以下の業務を実施すること。

① 筆記試験の問題を作成すること。試験問題は知床五湖利用調整地区利用適正化計画、知床五湖ヒグマ活動期運用ハンドブック及び過去問題等を参考にして作成すること。なお、作成した筆記試験の問題は環境省担当官の確認を得ること。

② 試験当日に試験の補助を行う。また、試験後には採点と結果の取りまとめを行い、受験者へ結果の通知を行う。なお、試験監督にかかる人件費は審査部会の費用で賄うため本業務には含まない。

3) 実地試験の準備、運営を行う。また、試験後には採点結果の取りまとめを行い、受験者へ結果の通知を行う。

(3) 知床五湖ヒグマ活動期運用ハンドブック改訂作業補助

研修教本でもある「知床五湖ヒグマ活動期運用ハンドブック」(平成 28 年度に作成)に関しては、ヒグマ活動期における安全確保と適正な利用をさらに推進するため、改訂が予定されている。そこで、過年度業務の成果を踏まえ、改訂作業の補助を実施することとする。作業としては、改訂素案の作成及び審査部会資料の資料作成補助を見込む。

#### (4) 報告書の作成

(1) 及び(3)について、報告書を作成する。

#### 4. 業務履行期限

令和6年3月20日まで

#### 5. 成果物

紙媒体：報告書 3部 (A4判 30頁程度)

電子媒体：報告書の電子データを収納したDVD-R等2式

報告書等(業務上発生するパンフレット・冊子等の印刷物を含む。)及びその電子データの仕様及び記載事項等は、別添によること。

提出場所 環境省釧路自然環境事務所ウトロ自然保護官事務所

#### 6. 著作権等の扱い

(1) 成果物に関する著作権、著作隣接権、商標権、商品化権、意匠権及び所有権(以下「著作権等」という。)は、納品の完了をもって請負者から環境省に譲渡されたものとする。

(2) 請負者は、自ら制作・作成した著作物に対し、いかなる場合も著作権者人格権を行使しないものとする。

(3) 成果物の中に請負者が権利を有する著作物等(以下「既存著作物」という。)が含まれている場合、その著作権請負者に留保されるが、可能な限り、環境省が第三者に二次利用することを許諾することを含めて、無償で既存著作物の利用を許諾する。

(4) 成果物の中に第三者の著作物が含まれている場合、その著作権は第三者に留保されるが、請負者は可能な限り、環境省が第三者に二次利用することを許諾することを含めて、第三者から利用許諾を取得する。

(5) 成果物納品の際には、第三者が二次利用できる箇所とできない箇所の区別がつくように留意するものとする。

(6) 納入される成果物に既存著作物等が含まれる場合には、請負者が当該既存著作物の使用に必要な費用の負担及び使用許諾契約等に係る一切の手続を行うものとする。

#### 7. 情報セキュリティの確保

請負者は、下記の点に留意して、情報セキュリティを確保するものとする。

(1) 請負者は、環境省担当官から要機密情報を提供された場合には、当該情報の機密性の格付けに応じて適切に取り扱うための措置を講ずること。また、請負業務において請負者が作成する情報については、環境省担当官からの指示に応じて適切に取り扱うこと。

(2) 請負者は、環境省情報セキュリティポリシーに準拠した情報セキュリティ対策の履行が不十分と見なされるとき又は請負者において請負業務に係る情報セキュリティ事故が発生したときは、必要に応じて環境省担当官の行う情報セキュリティ対策に関する監査を受け入れること。

(3) 請負者は、環境省担当官から提供された要機密情報が業務終了等により不要になった場合には、確実に返却し又は廃棄すること。また、請負業務において請負者が作成した情報について

も、環境省担当官からの指示に応じて適切に廃棄すること。

(参考) 環境省情報セキュリティポリシー

<http://www.env.go.jp/other/gyosei-johoka/sec-policy/full.pdf>

## 8. その他

- (1) 請負者は、本仕様書に疑義が生じたとき、本仕様書により難い事由が生じたとき、あるいは本仕様書に記載のない細部については、環境省担当官と速やかに協議しその指示に従うこと。

(別添)

## 1. 報告書等の仕様及び記載事項

報告書等の仕様は、基本方針の「印刷」の判断の基準を満たすこと。

なお、「資材確認票」及び「オフセット印刷又はデジタル印刷の工程における環境配慮チェックリスト」を提出するとともに、印刷物にリサイクル適性を表示する必要がある場合は、以下の表示例を参考に、裏表紙等に表示すること。

リサイクル適性の表示：印刷用の紙にリサイクルできます

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料 [Aランク] のみを用いて作製しています。

なお、リサイクル適性が上記と異なる場合は環境省担当官と協議の上、基本方針 (<http://www.env.go.jp/policy/hozen/green/g-law/kihonhoushin.html>) を参考に適切な表示を行うこと。

英語サマリーについては、以下により作成すること。

(1) 以下の対訳集等を参考に、ネイティブチェックを経ること。

- ① 環境用語和英対訳集(EIC ネット <http://www.eic.or.jp/library/dic/>)
- ② 法令用語については、日本法令外国語訳データベースシステムの標準対訳辞書 (<http://www.japaneselawtranslation.go.jp/>)

(2) 海外で参照されることを念頭に入力は半角で行い、全角文字や全角スペースは使用しないこと。特に以下に注意すること。

- ・丸数字は使用不可。「℃」→「degrees C」又は「degrees centigrade」
- ・記号はすべて半角。例：「“ ”」→「" ”」、「` ´」→「' 」、「—」→「-」
- ・化学物質は英文名＋化学記号（半角の英数字）。1/4 文字にしない。二度目以降は化学記号のみでも可。例：carbon dioxide (CO2)
- ・環境省の略称は「MOE」（大文字）

## 2. 電子データの仕様

(1) Microsoft 社 Windows10 上で表示可能なものとする。

(2) 使用するアプリケーションソフトについては、以下のとおりとする。

- ・文章；Microsoft 社 Word（ファイル形式は「Office2010（バージョン14）」以降で作成したもの）
- ・計算表；表計算ソフト Microsoft 社 Excel（ファイル形式は「Office2010（バージョン14）」以降で作成したもの）
- ・プレゼンテーション資料；Microsoft 社 PowerPoint（ファイル形式は「Office2010（バージョン14）」以降で作成したもの）
- ・画像；BMP 形式又は JPEG 形式

(3) (2) による成果物に加え、「PDF ファイル形式」による成果物を作成すること。

(4) 以上の成果物の格納媒体は DVD-R 等とする。事業年度及び事業名称等を収納ケース及び DVD-R 等に必ずラベルにより付記すること。

(5) 文字ポイント等、統一的な事項に関しては環境省担当官の指示に従うこと。

## 3. その他

成果物納入後に請負者側の責めによる不備が発見された場合には、請負者は無償で速やかに必要な措置を講ずること。

## 2023 年度 登録引率者新規養成研修カリキュラム日程

## 新規養成者養成カリキュラム日程



## 2023 年度 登録引率者の新規養成研修カリキュラムと試験要領

- ・ 以下の研修 A～G を養成のカリキュラムとする。スキルアップ研修は任意で参加可能。
- ・ 養成カリキュラムを修了した者は、研修修了者登録がされ、登録試験の受験資格を得ることができる。
- ・ 新規養成研修は、知床五湖登録引率者審査部会が募集、実施、管理を行う。

研修 A－制度概要・危機管理研修		担い手：登録引率者審査部会事務局
座学（半日）	<u>オリエンテーション</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験と登録フローの説明とカリキュラム概説</li> </ul> <u>制度概要</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用調整地区制度の目的（自然環境への負荷軽減、安全管理）</li> <li>・ 知床五湖運用方針の解説</li> <li>・ 知床五湖登録引率者の役割</li> </ul> <u>危機管理講習</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知床五湖における引率のリスク</li> <li>・ リスク回避のための備え</li> </ul>	

研修 B－知床五湖におけるヒグマ対処法の研修		担い手：知床財団
座学（半日）	知床五湖におけるヒグマの現状、ヒグマの生態・行動特性 遭遇回避、遭遇時の危機回避、持ち物・装備	
実地（半日）	危険な遭遇を回避するための対処法、遭遇時の危機回避の方法 ヒグマ撃退スプレーの試射、ヒグマの痕跡の見分け方	

研修 C－知床五湖の利用コントロール運用に関する研修		担い手：知床ガイド協議会（当該年度のルールを把握し、登録引率者の経験を持つ者）
実地（半日）	ヒグマ活動期レクチャー受講 ヒグマ活動期地上遊歩道踏査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運用マニュアルに基づく制度の確認</li> <li>・ 地理的、時間的な感覚の把握</li> <li>・ 注意ポイント等の確認</li> </ul> ※実地研修の際にヒグマが目撃された場合は引き返し、別日に実施する。	
座学・実地（半日）	ヒグマ遭遇時マニュアルを中心とした運用ルールの解説 無線連絡に関する講義と実技 無線を用いた遭遇時シミュレーション 演習のふりかえり及びインターン研修の諸注意説明	



※研修D以降の開始は、研修A, B, Cの修了を前提とする。

<b>研修D</b> －インターン研修1（ヒグマ活動期の知床五湖地上遊歩道ツアー同行）	
担い手：既存登録引率者	
実地 （4回以上）	既存登録引率者*が行う知床五湖遊歩道大ループツアーに4回以上同行 研修実施毎にレポート作成・提出

※同行する既存登録引率者への依頼は基本的に研修生自ら行うが、困難である場合は知床ガイド協議会等に相談し、協力を要請する。

<b>研修E</b> －シーズン中・シーズン後研修への参加 （既存登録引率者と共通のカリキュラム）（同日に試験説明会を開催）	
座学 （6月・10月、 各2時間）	ヒグマ遭遇事例の共有・意見交換・対応検討 ルールや運用についての意見交換

<b>研修F</b> －インターン研修2（知床五湖フィールドハウス受付業務補助）	
担い手：知床財団、知床五湖フィールドハウス	
実地 （1日）	知床五湖フィールドハウスでの受付対応、ツアー管理、認定手続きを体験研修後にレポート作成・提出

<b>研修G</b> －自主引率の実施	
協力：既存登録引率者	
実地 （計8回以上）	<p>下記①及び②について、一般者2名以上<sup>※1</sup>を自主引率 自主引率実施毎にレポート作成・提出 ※①または②のうち必ず1回は8名以上を引率すること。</p> <p>①ヒグマ活動期における自主引率</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知床五湖以外のフィールドでの引率を4回以上実施 ※知床半島内（フレペの滝・ポンホロ沼・羅臼湖・羅臼岳）を想定。他の地域を引率する場合は事前に相談すること。</li> </ul> <p>②植生保護期における自主引率</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知床五湖地上遊歩道（大ループ）において引率を4回以上実施</li> <li>・うち2回は既存登録引率者1名<sup>※2</sup>が同行し、引率技術を指導、評価</li> </ul>

※1 集客については新規養成者自ら行うこと。

ただし、集客が困難である場合は知床ガイド協議会、既存登録引率者等に相談し、協力を要請すること。

※2 同行する既存登録引率者への依頼は基本的に研修生自ら行うが、困難である場合は知床ガイド協議会等に相談し、協力を要請する。

スキルアップ研修（任意）	
担い手：知床財団、知床五湖フィールドハウス、知床ガイド協議会、ウトロ消防ほか	
座学・実地 （1日）	<p>コース外踏査、緊急対応訓練、ヒグマ対処訓練、知床五湖モニタリング調査・学術研究結果の共有、ガイド技術講座などから予定</p> <p>※シーズンのトピックや他研修結果を踏まえて決定する。</p> <p>※内容は事前にメール等で案内する。</p>

**【研修D、G実施に際しての諸注意】**

- ・知床五湖地上遊歩道は、ヒグマの出没や暴風雨など様々な理由により緊急閉鎖される可能性があるため、事前に情報を得て実施すること。また実地研修等は、期間中に完了するよう計画的に実施すること。
- ・事故発生時の対応のため、賠償責任保険への加入や、傷害事故に対する補償態勢を整えた上で自主引率を行うことが望ましい。
- ・研修D、Gのツアー中にヒグマ遭遇によりツアー中止となった場合、研修者のグループがヒグマに遭遇した場合、研修実施と認定される。他グループがヒグマと遭遇して中止となった場合、研修者のグループが第3湖（H地点）まで到達していれば、研修実施と認定される。

**【所定のインターン、自主引率の回数を達成できなかった場合について】**

- ・研修D、Gについては各々実施回数の半分（小数繰り下げ）までを次年度に繰り越すことができる。その他の研修は繰り越せず、次年度再履修するものとする（研修費用を再納付の上、研修Aより再開となる。）。

## 【研修修了者登録について】

- ・研修修了者は有効期間 3 年間（研修修了当該年を含む受験資格 3 回）の研修修了者登録がされる。研修修了者登録がなされた者は、以下の要領で登録試験を受験することができる。

引率者登録試験 1（筆記） 翌シーズン引率希望者全員が受験	
1 次試験 （筆記）	<p><u>受験資格</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該年度の新規養成研修の修了登録をされた者</li> <li>・過去 3 ヶ年の新規養成研修修了者のうち、当該年度のシーズン中・後研修の受講者</li> <li>・翌年度のシーズン前・中研修を受講すること</li> </ul> <p><u>試験内容</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制度、ルール、ヒグマ生態、地理、用具等について択一形式及び記述式で 30 問を出題。27 問以上の正答で合格。</li> </ul> <p><u>試験料</u>：3,000 円</p>

引率者登録試験 2（実地） 当該年度の引率規定回数 20 回以上の登録引率者は免除	
2 次試験 （実地） *閉園後に実施	<p><u>受験資格</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該年度の引率者登録試験（筆記）合格者</li> </ul> <p>※やむを得ない場合で筆記試験を欠席する場合は、試験 1 の受験資格と同様とする。</p> <p><u>試験内容</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒグマ遭遇回避術、避難時行動等について審査員 3 名がそれぞれ採点し、その合計を評価。</li> <li>・審査は、予め設定された確認項目及び試験全般における姿勢や対応の総合評価項目について、減点方式で採点し、8 割で合格。</li> </ul>

## 知床五湖登録引率者 新規養成者研修

### 研修D インターン研修 1

#### ヒグマ活動期の知床五湖地上遊歩道ツアー同行研修 実施要綱

知床五湖の利用のあり方協議会  
登録引率者審査部会

#### **目的**

ヒグマ活動期の引率について、ツアーに同行し、手続きから立ち入りまでの流れを確認するとともに、遭遇回避術、引率時の前後班との距離の取り方及びペース配分、同行者に対する安全知識の伝え方、グループのまとめ方などの地上遊歩道内での安全な引率のために必要な技術について実地で体験する。

#### **研修回数**

5月10日から7月31日の間に、4回以上実施する。  
なお、本研修の実施は研修A、B、Cの修了を前提とする。

#### **研修場所**

知床五湖地上遊歩道（大ループ）

#### **研修方法**

##### 1. 準備

- ① 研修生は、登録引率者資格を有するガイド事業者に協力を要請し、同行するツアーの日程を決定する。

研修生は、ツアーの一般利用者が定員に達している場合でも同行が可能です。

- ② 研修生は、ツアー同行研修の日時と登録引率者名を知床五湖フィールドハウスに事前に伝える。

連絡はツアー同行研修実施の前日 17:00 までに行ってください。

- ③ 事前に配布された研修レポートを用意する。

## 2. 研修

- ④ 立入り当日、研修生は、登録引率者の行う立入り認定手続きから立ち会い、事前レクチャーを受け、地上遊歩道のツアーに同行する。

登録引率者はツアー参加者から予め研修生が同行することの了承を取ります。認定証の交付時に知床五湖フィールドハウスのスタッフより、研修生が許可を受けて同行することを参加者に説明します。

- ⑤ 研修生は、事前に配布された研修レポートを用い、ツアーに同行しながら各ポイントの通過時間を記録するとともに、登録引率者の引率内容・ツアー参加者の反応等を観察する。

- ⑥ ツアー終了後に、研修生は、登録引率者とツアー引率の内容について振り返りを行う。

振り返りにおいて登録引率者は、研修生の質疑に対応します。

- ⑦ なお、ツアー中にヒグマとの遭遇があった場合には、研修生も登録引率者と同様に遭遇アンケートを作成し、五湖フィールドハウスに提出すると共に、本部スタッフのインタビューに応える（ツアー当日中に実施）。

※同行グループがヒグマと遭遇した場合は、研修実施として認める。

他グループが遭遇し閉鎖となった場合は、同行グループが第3湖（H地点）まで到達していれば研修実施として認める。

## 3. 報告

研修終了後、実施から1週間以内に環境省（請負業者）に研修レポートを提出する。

環境省（請負業者）において、研修台帳を更新し、研修及びレポートの提出状況を管理しています。レポート提出状況により、自主研修の進捗状況を把握し、審査部会事務局で共有しますので、必ず、期日どおりに報告してください。

なお、期限内に提出のない場合、研修失格となる場合があります。

## 知床五湖登録引率者 新規養成者研修

### 研修 F インターン研修 2

(知床五湖フィールドハウス受付業務補助) 実施要綱

知床五湖の利用のあり方協議会  
登録引率者審査部会

#### **目的**

利用調整地区制度の内容・ルールを把握し、ヒグマ活動期の運営体制を理解するために、知床五湖フィールドハウス（以下、五湖 FH）に勤務し、カウンターにおける制度案内、認定手続き、当日受付対応など指定認定機関の運営補助を行う。

#### **五湖 FH の役割**

研修を受け入れる五湖 FH は、研修の趣旨を理解の上、研修生の養成に責任を持って研修を実施する。

(具体的な実施内容)

- 1) 研修生が勤務する日程調整を行う
- 2) 研修生が五湖 FH 勤務時に、指定認定機関の役割、本部の役割について理解できるよう、業務指示を行う
- 3) 研修終了後に振り返りを行う
- 4) 研修レポートの引率者記入欄に記入し、提出する

#### **研修回数**

5月10日から7月31日の間に、1日間実施する。

なお、本研修の実施は研修 A、B、C の修了を前提とする。

#### **研修方法**

##### 1. 準備

- ① 研修生は、五湖 FH と調整し、勤務する日程を決定する。

連絡は研修実施の前日 17:00 までに行ってください。

## 2. 研修

② 研修のスケジュールは概ね以下の通りとする。

7:20 五湖 FH 集合・勤務開始

- ・ 守秘義務事項の確認
- ・ 設備、業務内容の確認

8:10 ガイドツアー受入開始

- ・ 来館者への情報提供
- ・ 受付・認定証発行作業のサポート
- ・ 自然情報の収集と、HP での情報発信

16:00 最終ツアー受付終了（5月は15:30）

- ・ 振り返り実施。レポート完成。

16:30 勤務終了

③ 研修生は五湖 FH スタッフと振り返りを行い、研修レポートを作成する。

振り返りにおいて五湖 FH は、以下の対応を行います。

- ・ 研修生が、研修レポートを作成するための質疑に応える
- ・ 研修生が作成した研修レポートを受取り、インタビューを行う。
- ・ インタビューから、研修生の制度理解について評価し、研修レポートの五湖 FH 記入欄に記述する。

## 3. 報告

研修終了後、完成した研修レポートを五湖 FH に提出（基本的には研修の同日中）する。

五湖 FH は環境省（業務請負者）及び審査部会事務局（ウトロ自然保護官事務所）に実施状況を報告します。

## 知床五湖登録引率者 新規養成者研修 研修G 自主引率研修 実施要綱

知床五湖の利用のあり方協議会  
登録引率者審査部会

### 目的

ヒグマ活動期の安全管理において、参加者の掌握、注意事項の周知、指示の方法など引率技術が重要な要素となる。これらの技術向上のために、利用調整地区以外の地域も含めた知床の各地で、引率経験を積むための自主引率研修を行う。

また、植生保護期の五湖エリアを本研修の対象地とし、五湖での引率経験を積むことにより、地形の把握、時間管理技術の習得などを旨とする。

### 研修の実施方法

- 1) 一般の方を参加者とするツアーを、メインガイドとして引率する。
  - ・集客については新規養成者自ら行うこととする。ただし、集客が困難である場合は知床ガイド協議会、既存登録引率者に相談し、協力を要請する。
  - ・参加者は2名以上とする。ただし1回以上は必ず8名以上を引率すること。
  - ・本研修の実施は、研修A、B、Cの修了を前提とする。
- 2) 研修の実施確認のため、ツアー実施前に、研修として引率することを事前連絡する。
  - 【①ヒグマ活動期の他地域引率】

ツアーの実施前に、研修G（ヒグマ活動期 五湖以外）の研修レポートに、立入り期日、立入り場所、立入り開始時間、構成人数を記入して環境省（業務請負者）に FAX またはメールで事前連絡をする。
  - 【②植生保護期の地上遊歩道引率】

ツアー実施前に、知床五湖フィールドハウスに立ち寄り、研修として引率することを報告し、立入り開始時間、構成人数などを事前報告する。
- 3) 植生保護期の引率の内、既存登録引率者2名が1回同行し、引率技術を指導する。
  - ・同行する既存登録引率者は、自ら知床ガイド協議会に相談し、協力を要請する。
  - ・日程等の都合上、既存引率者2名が同行できない場合は、審査部会事務局から1名が同行する。
- 4) 引率後に研修レポートを作成する。

研修レポートは、実施後1週間以内に完成し、環境省（業務請負者）に提出する。



環境省（業務請負者）において、研修台帳を更新し、研修及びレポートの提出状況を管理しています。レポート提出状況により、自主研修の進捗状況を把握し、審査部会事務局で共有しますので、必ず、期日どおりに報告してください。

なお、期限内に提出がない場合は研修失格となる場合があります。

### **研修対象エリア・回数**

- 1) 5月10日から7月31日（ヒグマ活動期）の期間に、  
審査部会が認める知床の他地域（フレペの滝・ポンホロ沼・羅臼湖・羅臼岳）での引率を4回以上行う。フレペの滝・ポンホロ沼・羅臼湖・羅臼岳以外のフィールドにおいて自主引率を計画する際には、1週間前までに研修管理担当機関へ、その計画を伝え、判断を仰ぐこと。審査部会内で計画内容について確認の上、可否の回答を行う。  
なお、カムイワッカ湯の滝のみのツアーなど、2時間以下の行程のツアーは認めない。また、ナイトツアーも認めない。
  
- 2) 8月1日から10月20日（植生保護期）の期間に、  
知床五湖地上遊歩道・大ループコース（フィールドハウス→五湖～一湖→高架木道）の引率を4回以上行う。  
なお、研修実施者がヒグマと遭遇しツアーを中止した場合、研修実施として認めることとする。他の利用者がヒグマと遭遇しツアー中止となった場合、第3湖（H地点）までツアーが到達していれば研修実施として認めることとする。

### **<留意事項>**

事故発生時の対応のため、賠償責任保険への加入や、傷害事故に対する補償態勢を整えたうえで自主引率を行うことが望ましい。